

丹波新地域ビジョン検討状況

県民からの意見徴収

- (1) ビジョンを語る会
- (2) ヒアリング
- (3) 丹波地域未来デザイン会議
- (4) 丹波地域未来フォーラム



R3

- (5) 若手職員意見交換会
- (6) 庁内ワーキング会議



R3

- 7/26 たんば未来デザインセッション
- 8/31 丹波史を聞く

丹波新地域ビジョン検討委員会

R2

- 7/28 第1回検討委員会
- 12/3 第2回検討委員会
- 3/8 交流・元気分科会
- 3/16 絆・安全安心分科会
- 3/19 自立・次代分科会

R3

- 7/5 第3回検討委員会
- 9/14 第4回検討委員会

(1) ビジョンを語る会

地域の団体や地元有志グループのメンバーなどで、地域の課題や将来像について車座形式で対話し、ご意見をうかがった。



日程	対象者	参加者数
2020.9.27	シリ丹バレーキックオフミーティング参加者	11名
2020.10.22	丹波青年会議所メンバー	17名
2020.11.2	農業経営士・女性農業士・青年農業士	16名
2020.11.2	丹波篠山青年会議所メンバー	11名
2020.11.23	丹波地域で子育て中の方	13名
2020.12.19	丹波の森大学受講者	18名
2021.6.24	丹波篠山市地域おこし協力隊	10名

主な意見

- ・醸造職人は季節労働。冬しか稼げない。職人を守るために保障制度の充実などが必要。
- ・丹波は“しっかり”田舎である。このしっかり田舎である丹波の良さを残して発展させたい。
- ・丹波は兼業農家が多い。兵庫の特色として支援して欲しい。
- ・自治会活動の週1回の清掃や集まりは共働き世帯に負担。負担ばかりでなく、福利厚生的な要素を持たすなど入りたいと思える自治会に。
- ・父親の育児参画も必要。残業をなくす声かけなど、企業も取り組む必要がある。
- ・兵庫は住民とともに取り組む参画の精神がある。

(2) ヒアリング

地域のキーパーソン、先進的な活動をしている事業者、地域団体等へヒアリング調査を行った。

(主な意見)

- ・子どもたちが「丹波はふるさとだ」と思える教育が必要
- ・「まつり」を通じた人づくりが地域を作る
- ・「丹波の森」を活かし、「丹波のカラー」を発信していくことが必要
- ・丹波は源流。きれいな水を保つための豊かな森づくりをしていく必要がある
- ・田んぼが太陽光発電施設になるのではなく、バイオマスで地域全体の発電ができるとよい
- ・丹波では、畑作業ができる。この環境が残って欲しい
- ・丹波は一流ブランドのイメージがあり、可能性を持っている。良いものを生産すれば流通もついて回るが、一定の供給量とそのため生産体制が必要
- ・「水分かれ」を「決断」のスポット・聖地にし、そこへ行くまで道を「決断の道」としたい
- ・丹波地域は人間同士のつながりがあるが、今後は地域内の交流が必要になる
- ・女性の登用。女性が元気なまちづくりが必要
- ・丹波は人がいい。だから住むという移住者もある

日程	対象者
2020.10.9	NPO法人 情報社会生活研究所
2020.10.14	NPO法人 結
2020.10.14	丹波篠山市商工会
2020.10.16	丹波市商工会
2020.10.16	丹波青少年本部、こころ豊かな美しい丹波推進会議
2020.10.26	丹波篠山市社会福祉協議会
2020.10.28	丹波篠山市観光協会
2020.11.11	丹波篠山市老人クラブ連合会、丹波篠山市婦人共励会、丹波篠山市手をつなぐ育成会、丹波篠山市身体障害者福祉協議会
2020.11.12	丹波市観光協会
2020.11.17	丹波篠山市愛育会
2020.11.18	丹波市社会福祉協議会
2020.11.24	丹波篠山市国際理解センター
2020.11.24	丹波ひかみ森林組合
2020.11.25	丹波市国際交流協会
2020.11.25	丹波市森林組合
2020.12.13	丹波市立 農の学校
2020.12.22	丹波ひかみ農業協同組合
2021.4.2	一般社団法人 神楽自治振興会
2021.4.6	丹波立杭陶磁器協同組合理事長(雅峰窯) 市野秀之氏
2021.4.20	株式会社大地農園代表取締役社長 大地但氏

(3) 丹波地域未来デザイン会議

(一社) BEETに委託

回数	日程	場所
第1回	2020.9.13	丹波篠山市立四季の森生涯学習センター 大会議室
第2回	2020.10.4	丹南商工会館会議室
第3回	2020.11.1	丹南商工会館会議室
第4回	2020.11.29	丹南商工会館会議室
第5回	2020.12.13	丹波の森公苑 セミナー室

丹波地域にゆかりのある(在住、在勤、在活) 20歳～40歳の若者55名が討議を重ねて地域のデザインを描くワークショップを開催し、アイデア集「未来のアイデア1000」を作成した。



(主なアイデアワード)

- 1 人口減少 2 新しい教育 3 これからの情報社会 4 未来の交通システム 5 丹波は自然がある 6 スローライフ
 7 農業ができる 8 今後も続く丹波の観光 9 歴史文化残る 10 雇用が守られる 11 移住を勧める
 空き家対策 12 思いをつなぐ高齢化社会 13 次につなぐコミュニケーション地域 14 地域のつながり支援
 15 災害のない地域

(4) 丹波地域未来フォーラム

「未来のアイデア1000」を元に14のテーマの中からグループで最も気になるテーマを選択し、ワークショップ参加者による30年後の未来を話しあった。

選択テーマ	結果
テーマなし	他地域に住んだことのある者の視点から、丹波の魅力は、スローライフができる。食。自然のよさ。人との交わり。こういった良さをアピールして2地域居住の拠点となって欲しい
コミュニケーション	病気と犯罪がない社会となり、多世代が交流できる施設が充実する。また、固定したところに永住しないフリーアドレスの社会になる
空き家	シェアハウスとしての活用や短期間滞在ができる施設に。イベント型の活用(空き家の改修体験)
農業	30年後も土に触れあえる農業があることは大事
空き家	マッチングアプリで同じ価値観を持つ人が集まるシェアハウスとして活用
農業	全自動化すれば今の課題は全てクリアする
空き家	空き家が自動保全されるシステムができ、シェアハウスとして活用されている。DIYが楽しめるリノベーションパッケージがある
テーマなし	集中から分散へ(県ビジョン課提案構想試案より) 世界から選んでもらえる丹波地域へ
雇用	30年後は働かなくてもお金をどうにかして生み出せるような選択肢やシステムがあり、生活できているとよい
空き家	他人の話が聞けて、多様性を受け入れるようになり、2世帯同居が進むと空き家は減る。家庭がオアシスになる関係ができる

(5) 若手職員意見交換会

- ・入庁3年目～6年目の丹波県民局内の若手職員(11名)の意見を聞く意見交換会を実施(6/18)
- ・一般事務職はじめ、環境科学職、獣医師、林学職や農学職、建築職 など多様な業種から参加した。

30年後の望ましい丹波地域に向かって一番大事なキーワード

楽農 発想力、想像力 人
風景 日本に丹波あり つな
げる MORITEC つながり
スマート 自由 コミュニティ
一人多役



(6) 庁内ワーキング会議

- ・丹波県民局の班長、所長補佐級による庁内ワーキング会議を開催

(6/23)施策との比較、未来ストーリーの作成検討
(8/3、8/11)将来像別ワークショップ
(9/2、9/7)関係課庁内ヒアリング



たんば未来デザインセッション

—2050年の地域社会を語る—

- ・丹波検討委員会委員長角野幸博教授とゲストスピーカーによる30年後の未来を描くオンライン対談を開催

・令和3年7月26日(月)13:00~15:00

議題

「2050年の地域像

—空間像、社会像、人間像—

「2050年の暮らし方、住まい方、働き方」

(出演者)

- ・角野幸博(関西学院大学建築学部長・教授)
- ・木多道宏(大阪大学大学院工学研究科教授)
- ・水方秀也((株)竹中工務店開発計画本部長(西日本))
- ・光井将一(奈良先端科学技術大学院大学特任教授)
- ・岡絵里子(関西大学環境都市工学部建築学科教授)

当日参加者:36名



- 日時 令和3年7月26日(月)13:00~15:00
- 出席者 (順不同) 角野 幸博 関西学院大学建築学部長・教授 (丹波新地域ビジョン検討委員会委員長)
木多 道宏 大阪大学大学院工学研究科教授
水方 秀也 (株)竹中工務店開発計画本部長(西日本)
光井 将一 奈良先端科学技術大学院大学特任教授 (兵庫県6次産業化プランナー)
岡 絵里子 関西大学環境都市工学部建築学科教授
- 議題 「2050年の地域像—空間像、社会像、人間像—
「2050年の暮らし方、住い方、働き方」
- 視聴者 丹波新地域ビジョン検討委員会委員
丹波地域ビジョン本部構成員、関係機関 等

⇒ 申込みのホームページ、QRコードは裏面に記載しています

【主催】兵庫県丹波県民局・丹波新地域ビジョン検討委員会
【お問合せ】丹波県民局県民交流室総務防災課ビジョン担当 ☎ 0795-73-3724 ✉ tambakem@pref.hyogo.lg.jp

丹波史を聞く

丹波の歴史を研究されている専門家から丹波の歴史・風土・伝統・気質などについての講義を実施

- ・令和3年8月31日(火) 14:00~16:00
- ・たんば黎明館多目的ルーム

講師

神戸大学地域連携推進室

松下正和 特命准教授

テーマ

- 「丹波の風土・文化の固有性」
- 「丹波村落の伝統・風習(含コミュニティ・ルール)」
- 「丹波人氣質について」



丹波新地域ビジョン検討委員会

- 7/28 第1回検討委員会
- 12/3 第2回検討委員会
- 3/8 交流・元気分科会
- 3/16 絆・安全安心分科会
- 3/19 自立・次代分科会
- 7/5 第3回検討委員会
- 9/14 第4回検討委員会
- 11月 第5回検討委員会(予定)
- 12月～1月 パブリックコメント実施
- 1月 第6回検討委員会(予定)

○リーダーの選任
○30年後の目指すべき姿の検討

丹波新地域ビジョン検討委員会名簿

氏名	所属・役職
安達 鷹矢	株式会社 Local PR Plan 代表取締役
足立 雄一郎	丹波市商工会青年部長
角野 幸博	丹波の森公苑長、関西学院大学総合政策学部都市政策学科教授
構井 友洋	丹波篠山市担い手農業者協議会会長・丹波篠山市商工会青年部 部長・株式会社丹波篠山かまい農場代表取締役
上南木 昭春	大阪府立大学名誉教授(生命環境科学研究科緑地環境科学専攻)
岸 孝明	第10期丹波地域ビジョン委員会委員長
清水 夏樹	神戸大学大学院農学研究科特命准教授(丹波篠山フィールドステーション)
清水 徳幸	丹波市総合政策課長
鈴木 克哉	NPO法人里地里山問題研究所代表理事
瀧山 玲子	第10期丹波地域ビジョン委員会副委員長
竹見 聖司(R2) 藤田 尚位(R3)	丹波篠山市創造都市課長
谷水 ゆかり	NPO法人Tプラス・ファミリーサポート 理事長・谷水加工板工業株式会社代表取締役
土性 里花	一般社団法人ウイズささやま総務課長・丹波篠山市社会福祉協議会副会長
中川 ミミ	一般社団法人Be代表理事
宮垣 良一	丹波大空の会前代表

「みんなで丹波の森」からの継承と再構築

- 2001年2月

「みんなで丹波の森」成長しつづける丹波の夢ビジョン作成
～「森の市民」を目指して～

- 2011年10月

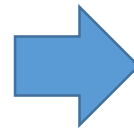
成長しつづける丹波の夢ビジョン改訂版「みんなで丹波の森」作成

基本理念

自然や文化を大切にしながら、これらを生かした「丹波の森」づくりを進める。

初期ビジョン(将来像)

- ・丹波のことは自分たちで決める仕組みがある地域
- ・都会に近い田舎の良さを活かす地域
- ・多世代が支え合う豊かなコミュニティがある地域
- ・幅広い働き方・いろいろな職種・手応えを感じる社会活動ができる地域
- ・無意識のうちにつくられているバリアがない地域



改訂ビジョン(将来像)

- ・みんなで創る”自立のたんば”
- ・都会に近い田舎を楽しむ”交流のたんば”
- ・やりがいを実感できる”元気な丹波”
- ・多世代が支え合う”絆のたんば”
- ・ともに暮らす”安全安心なたんば”

新ビジョンの基本理念・基調・基本的視点

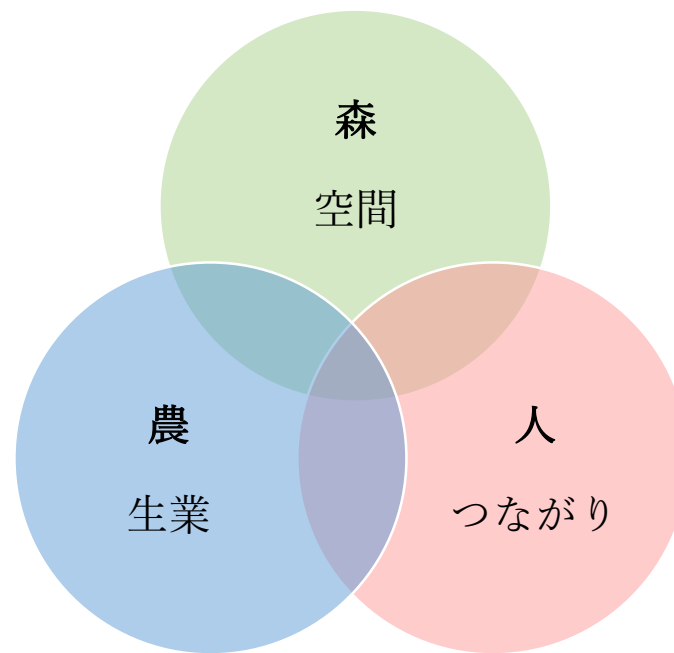
基本理念

『つなごう丹波の森づくり』

世代をつなぐ、環をつなぐー丹波の森づくり第2章ー

世代を越えて森づくりの活動の継承・発展をめざすとともに、
「3つの環」のなかに好循環の流れを生み出すことで
持続可能な地域社会の構築をめざします

自然の環: 豊かな森を守り、活かして、次代へつなぐ
産業の環: 農の営みを続ける、生業を創り、ネットワークをつなぐ
人の環: 丹波を愛し、丹波を担う人を育む
人と人のつながりをはぐくむ



基調

『みんなで丹波の森』
『ともに感じ、ともに進み、ともに創るー共感・共進化・共創』

基本的視点

「寛容性」、「循環性」、「可能性」
「固有性」、「普遍性」

30年後の目指すべき姿

森〔空間像〕

- ・豊かな森（空間）を守り、活かす

農〔社会経済像〕

- ・農のあるくらしを楽しむ、農の営み、生業を創る（興す）

人〔人間像〕

- ・丹波を愛し、丹波を担う人を育む

技術
革新

ネット
ワーク

国際
化

空間像（豊かな森（空間）を守り、活かす）

- エコ・ハビタットの創生－森に憩い、森で暮す（働く）「もりびと」たちのコロニー・コミュニティ形成
- 生業・生産の場（資源、エネルギー源）としての森の再生・復活が実現－木質バイオマスによるエネルギー自給率100%達成
- 集落をまるごとテーマ・コミュニティ（趣味人特区）に転換
- まちのそこかしこが、リノベーションにより、サードプレイスーオフィスや創造的活動拠点、交流拠点（創造的界限）－に変身
- 空の移動革命が現実－丹波の空をeVTOL（電動垂直離陸機）が飛び交い、いつでも、どこでも行きたいところに行ける時代に

社会経済像（農のあるくらしを楽しむ、農の営み、生業を創る（興す））

- 新農本主義（農（森）を中心とした暮らし、経済、社会）の台頭
- MORITEC（森、農、食、コミュニティ×DX）による新しいビジネス・サービスの創造—「地産地創」、「地創地産」の実践（陸上養殖等）
- 生産・サービス活動、空間管理の無人化、省力化、自動化の達成（無人農業、ロボット介護等）
- シェアリング・エコノミーによる新しい循環型経済の成立—社会ストック、人材の共有化、デジタル通貨が主軸通貨に
- 関係人口を巻き込んだ仮想コミュニティが担い手の源泉となり、地域自治・経営の基盤に

人間像（丹波を愛し、丹波を担う人を育む）

- 自然と共生する暮らし、農のある暮らし、食の豊かさを享受できる暮らしが基本に
- 多種多様な（有償・無償の）しごとの組み合わせにより自らのライフスタイルを演出
- シビックテックを駆使し、価値創造に挑むイノベーターとしての市民輩出
- 多国籍チームによる地域課題の解決－世界の叡智を丹波に結集（丹波の森大学のグローバル化推進）
- 自然環境リテラシーと科学リテラシーの双方を高める教育の実践によって、感性と知性のバランスのとれた人材を育成
- 100歳超のシニアがAI、ロボットの助けを借りて現場の第一線で現役として活躍